

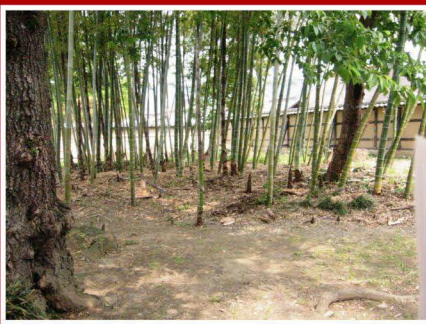


酒井悠日香記者  
長野市 1年

「このたいけんをみて」

まつしろのさなだいで、このたいけんをしているところをみました。みにきたひとがじゆうにことをひくことができるそうです。

ことをひいているひとが「おずかしくて、ちょっとしかひけなかったよ」といっていました。このおとがすぐくひいていて、とてもいいおとでした。そして、ことは、わたしがおもっていたより、とてもおおきかったので、びっくりしました。こんどは、わたしもことをひいてみたいなおもいました。しゃしんをとったり、はなしをきいたり、とてもたのしかったです。



清水飛々徠記者  
長野市 4年

「たけのこ、たくさん」

タケノコは、真田邸の池のそばに、50本くらいはえていました。タケノコは、おにのつのみたいでした。色は、みどりとかくろとかでした。かたそうでした。そばには竹や草が多かったです。木のかべにかこまれたりしていました。竹には、たくさん葉がありました。タケノコもちっちゃかったから赤ちゃんみたいでした。タケノコがとればいいとおもいました。高いタケノコと低いタケノコがあり、さいていでも5センチくらいでした。高くて30センチくらいでした。たくさんタケノコがあったから、とりたいなとおもいました。



村岡嶺記者  
長野市 5年

「文武学校工事中」

文武学校の文学所は工事中でした。高く広く白いのでおあわてしていました。たぶん、きずをつけないようにするためだと思います。中は一部しか見えなくて、ほかは写真で見られました。

この工事は、いたんだところをなおすためだそうです。文学所だけではなく、すべてのところを工事するそうです。工事は、文武学校を大切にすることだけではなく、文武学校をつくった人たちの思いも大切にするためでもある、と思います。工事が終わったら(完成予定は2015年3月18日)、お客さんがいっぱい来る観光名所になってほしいです。松代の文化を大切にしていきたいです。



小山彩葉記者  
長野市 4年

「真田邸の建物」

真田邸は江戸時代、新御殿ともよばれていました。庭は、池が大きくて、きれいでした。池のまわりには、泉水榎という榎がありました。その榎は、城下の武家屋敷から、新御殿に流れこみ水にふくまれる砂などを、泉水(池)の手前でちんでんさせる役わりを果たしています。真田邸はすごく広くて、中は長いろうかがたくさんありました。真田邸は150年前からあるのに、建物はすごくきれいでした。これからも松代の古い建物や町を大切にしていきたいと思いました。

# しん ま い 図 鑑

みんなが毎日、筆記用具や教科書を学校で使うように、会社で働く人たちにも“なくてはならないもの”があります。信濃毎日新聞で働く人は、日ごろ、仕事でどんなものを使っているのか…。

新聞社ならではのものから、見ただけでは使い道が分からないナゾのものまでしょうかします。初回は、新聞記者に欠かせない「記者ハンドブック」です。

新聞記者は、記事を書くのが仕事。そしてその記事は、分かりやすく正確な文章でなければなりません。でも、日本語の用語や漢字の使い分けなどはとても難しく、記者も知らないことや迷うことがたくさんあります。そんな時、道しるべとなるのが「記者ハンドブック」(一般社団法人共同通信社編著)です。これは新聞記事で使える漢字や用語を集めた本です。例えば、「急遽」<意味: 事が突然で、いそぎあわてる様子>という言葉を使おうと思い、ハンドブックを見ると

きゆうきよ(副) (急遽、急拠) → 急ぎ、急ぎよ

こんな風に書いてあります。この場合、遽という漢字は使わず平仮名にするか、「急ぎ」という言葉に置き換えるかを選びます。ほかにも、「アポカド(×アポガド)」「ユニホーム(×ユニフォーム)」といった外来語の表記など、いろいろなお話がのっています。

記者は1人1冊、必ず記者ハンドブックを持っていますが、使い方はさまざま…。地域活動部の5人の記者も、同じハンドブックとは思えないくらいちがいが出ています。さあ、どれがだれの持ち物でしょう…



日本語ってムスカシイの... ハンドブックにもっている!

「役不足」…本来、役者が自分の役も不足として不満を言う意味。よく「荷が重い」「大役過ぎる」「力不足」などの意味で使っているのを聞くことがあるけれど、それは誤りだよ!